

2023年度第4回町田市介護保険事業計画・高齢者福祉計画審議会追加意見一覧

参考資料1

No	委員名	委員所属	議題	内容	市の回答
1	齋藤 秀和	町田市ケアマネジャー連絡会	2	多世代が交流できる場づくりの推進について、J1昇格の可能性が高くなり、FC町田ゼルビアのサポーターとして高齢者が観戦できるような環境を検討してほしい。「オール町田」の構築のためにも。(自分の利用者で、閉じこもりがちであった方がゼルビアを国立競技場まで応援に行けるようになり、要介護状態から要支援状態に改善したケースがあり地域密着的に高齢者から若い世代の方が一緒に応援できる体制を作してほしい。)	FC町田ゼルビアのサポーターとして高齢者と若い世代の方が一緒に観戦できるようにするための取組としては、町田ゼルビアが民間事業者と協力して、パブリックビューイングを実施しております。このほかにも、市内では高齢者と学生や子育て世代などが交流する機会が増えてきており、今後も、様々な世代が関わるイベント開催など、多世代交流の活動を推進してまいります。
2	齋藤 秀和	町田市ケアマネジャー連絡会	2	共生社会の、取り組みとして行政の縦割りの改善を第8期でお願いしていましたが、現状と第9期ではどのように取り組んでいくのかを知りたい。9月29日「町田地域ホットプラン」研修で感じたことは、地域が主体的に行うことの必要性と行政の縦割りが弊害になっていることを感じました。これから目指す「重層的支援体制」にたいして踏み込んでほしい。	いわゆる「8050問題」といった高齢者分野だけでは解決が難しい課題に対応するため、現在、高齢者支援センターは、障がい者支援センターや保健所を交えて、各機関での対応状況や課題についての共有や意見交換を行っております。また、庁内の福祉・保健医療関係部署の職員が参加した検討会を開催し、複雑化・複合化した相談の受付体制や、各相談支援機関の連携の在り方及び支援を必要とする潜在的な相談者を把握する体制づくりについて、進捗の確認や実施状況の共有を行っております。第9期についても、複雑化・複合化した相談や、相談につながらない方を、アウトリーチで把握していく等の役割を持つ「まちだ福祉〇ごとサポートセンター」を軸とした相談支援体制を拡充してまいります。
3	齋藤 秀和	町田市ケアマネジャー連絡会	2	人材確保が難しく、派遣会社からの紹介で対応している事業所が多くあり、経営状態をあっぱくしている話を聞くことが多くあります。対応策を考える必要性を感じています。また、職員を定着させるために認知症ケアの質を下げた施設に入所者が退所してもらっているケースを聞くことがあります。これから、認知症高齢者が増える中では認知症ケアに関する研修システムを作る必要があるのではないかと感じています。	市では、町田市介護人材開発センターと協力して、介護人材の確保に取り組んでいます。センターは2017年に職業紹介業の許可を得て、人材の紹介を行っています。他の派遣会社等と比べて低い料金で、介護の専門職や周辺業務に携わる人材を紹介しています。また、2023年度からは新しく就労する職員が資格を持って働けるよう、「介護職員初任者研修」の資格取得支援を開始しました。認知症ケアに関する研修については、令和3年度報酬改定により、居宅介護支援等を除く全サービスの全職員に認知症介護基礎研修の受講が義務付けられました。東京都が認知症介護基礎研修を実施しており、市では、対象事業所に対しての周知も行っております。また、東京都では、基礎研修以外にも実務経験に応じ複数の研修を実施しており、一部の研修については、町田市から受講者を推薦しております。引き続き、必要に応じて研修の周知を行ってまいります。